WASON
May 1892
no. 317

女學雜誌

第三百十七號

明治二十五年五月十四日發兌

史傳を見よ

偉僧ルーサアの母

これぞ此寧馨兒活水の源

都門と九州の青年男女

百二都城の可憐孃

兒籃を見よ

吾がやどの花

今や爛熳たる佳美の境

下六番町六番地
女學雜誌社

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

The Woman's Magazine.

(JOGAKU ZASSHI.)

No. 317. MAY 14th. 1892.

EDITORIAL :—In Pursuit of Spring.

CHILDREN'S COLUMN :—The Flower of the Family :—(Translation).

MISCELLENEOUS :—The History and the Experience on the Girl's Education (Sakurai Chika.)

BIOGRAPHY :—The Mother of the Monk Luther. (Mumeishi).

NOVEL :—"Kurozukin" (No. 6) Jiuhachi-koshi.)

CRITICAL NOTES :—On Reading "Abura Jigoku," (No. 3) (Tōkoku.)

THE ORPHAN'S FRIEND :—

CONCERNING WOMEN :—

THE PRICES OF ARTICLES :—

WEEKLY NOTES :—

第三百十七號目次

●迎春行

●兒籃　わが宿の花(第四回上)(若松しづ子)

●雜錄　女子教育に於ける經歷及經驗、第一經歷のあらまし(下)(櫻井ちか子)

●史傳　僧ルーサーの母(無名氏)

●理學　疼痛と苦痛(馨子)

●小說　黑頭巾(第六回)(十八公子譯)

●批評　油地獄を讀む(三)(透谷)

●孤兒之友

●女報

●物價

女學、教育豫約諸君に謝す

女學及教育學は、共に本月二日に第二號を發兌すへき筈なりしが、講師巖本善治君旅行中にて、編輯遲延致し、爲めに御愛讀に背き看に深く謝し候、巖本君去る十二日歸京被成候間本月下旬無相違出版郵送可仕候

女學雜誌社內　藤井米八郎

『女學生』廿三號より大に變化一新せり

一同盟せる高等女學校の秀才、筆大に熟して一層小學女生の上にも博く友たらんとす、

一故に面白き趣向をも加えたり、即ち、野邊の遊び、博物の園、秘藏箱、文學、時事、家の友、理科の話し、詩歌の卷、古文庫、小說、餘興等の欄を增したり、

一別に『文の林』欄を設けて廣く小學校女生徒の文章をも掲げんとするが故此等の投書をも募るものなり、

一代價も、追々愛讀者增加するを以て一層奮發する所あり、即ち四錢に改めたり、

一改まりて出づる廿四號は來る廿一日を以て發兌す、

女學生發兌部

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

女學雜誌 第三百十七號
明治二十五年五月十四日發兌

迎春行

(六十九) 長崎及熊本

長崎は通行人によりて利す、買客は一夜の客なり、賣品は一朝の試みなり。一朝一夜を過れば既に責任を免るゝによりて、長崎人の商賣は此上なく不信切なり。されば、怠漫にして不時の利を握り、一を以て百と爲さんとす、輕薄遊惰の風隆んなるは之が爲め歟。熊本は、通行人なからんことを希望したり、其城の籠城に適するが如く、其地は他と遮斷することを要としたり。舊細川侯、嘗て薩侯に謂つて曰く、聞く君弊邑を得んことを欲すと、請ふ以て献ぜん、唯だ三太郎の肯んぜざるを何如んせんと。熊本の山川は容易く人の往來することを肯んぜざる也。況んや、淸正以來の政策、よく人心をして保守執着ならしめたり。熊本人は、其祖先の地に居て、祖先以來の出來事を暗誦し、一顰一笑の事といへども容易く忘るゝことなし。他邦人に向つて恩怨を記臆せずとも、其同邦の人に對して之を忘るゝことなし、其朋は祖先以來、其讎は亦た祖先以來。祖先以來の事、三太郎が俄かに之を輸出し去り、忘却せしめ了はらざるを如何んせん。長崎は、通行あるによりて輕薄となり、熊本は通行なきによりて偏固となる。長崎は水の如し、熊本は山の如し。長崎人は眞とに商人にして、熊本の人は實に田舍武士たる也。然れども、今や、長崎は九州鐵道の外に立ち、熊本は其中心となる。長崎の船舶は追々坂神に走り、其貿易年々に減ずれども、熊本の山は口を開き其胴腹内に文明の車をして快走せしむ。長崎には漸次通行人を失なふべし、熊本は追々通行人を増すべし。熊本人は最早や結髪を解いて電信柱の下を通行せざる可らず、長崎人は、俳諧を止め、茶の湯を乾して、奔走勉勵せざる可らず。外形物質の變化、よく人心の固陋を解く。滊車は民情一新の傳道師なり、開國維新の率先者なり。

(七十) 三池石炭

敎育とは、人の善性を掘出すものなり、故に之を、エヂウケーションと云ふ、盖し抽出開發の義なり。然るに、世多く、土中の金銀炭鑛を堀出することに熱中して、左まで人の善性を

開堀することに盡力せざるは何故ぞや。われ、大牟田に遊び、煙突空に聳え、黒煙雲に連なり、二千の男女晝夜を分たず石炭を採堀するの狀に近づき、切に此の感慨を催ふしたり。聞ならく、礦内の風儀、言はん方なく不潔、男女裸躰、事を執りて醜事筆帋に露わしがたきものありとぞ。左れば、之のみに止まらず。此礦ある近邊村落の風儀、炭を堀出すことの隆んなると共にいよ〳〵惡化す。たとへば煙突の吐出す黒煙追々に人の心を黒うするの狀態なり。純朴なる田舍漢は狡猾なる射利の商人となり、潔白にして野の百合の花の如かりし村孃は、頸を白くする邪淫の毒婦となりぬ。落々たる車のゆく音は、必らずしも文明の聲にあらず、千艘万舟の往來は、人を利導するの案内にはあらず。三池郡中、愛兒あり、好家ある人は、たゞ其物產の增すことのみによりて慶賀す可らざる也。則はち思ふ。大凡そ、物形上に一大變動を惹起さんと欲する時は、之と共に心靈上の改良をして同伴せしむるの準備に着手せずんはある可らず。然らざれば、形、靈を制し、物、心を卑くめ、人性大ひに墜落せんとす。物產、外形の上に進步して、心理内面の方に退步せば、之を文明世界の利得と云ふべきにあらざる也と。されば、新たに、港を設くる時、新たに、荒蕪地を開く時、又は、新たに移民を殖して新領地を擴ろむる時の如きは、之と共に深く道德上敎育の準備に注意せずんばある可らざる也。道德、物形の變動を消化して依然人を善性の下に屬せしむる乎。はた、物形、道德の進步に先だちて、習慣を打破し、制裁を裂解し、漫に惡性の覊を放つて勝手我儘の放埓を爲さしむる乎。二樣の變化は即はち天地の變化にして、惡魔もしくは天の使の勝負となるもの也。經世家、深く戒心警省せずんばある可らず。條約改正に於て、内地雜居を許すの可否は、斷じて經濟上の問題にあらず、實に道德上の一大疑問なり。

（七十一）開國殖利の着眼點

人の心は本也、財寶は末なり。本の爲に末を計るはよし、天幸あらん、末を思ふて本に省みざる時は、不測の災害あらんとす。平凡なる政治家、たゞ物產外形の上に注目して、人心の影響に顧慮せず。たとへば、問屋が荷物を取扱ふことの如く、人を見て物とし、人心の靈妙至聖を思はず、而して之を政治家らしき見識なりとせり。十九世紀、唯物的の政治家は、支

那古代の政治家にだも及かざる也。故に、國を開き、物產を殖やすの計策は、常に人心敎導の上より着目し來らんことを要す。政治及商賣も亦必竟、人心を敎導するの目的によりて成立つもの也。たとひ全世界を獲るとも、もし靈魂を失なはば、何の益あらんや。

（七十二）久留米置娼論

久留米の市會議員中、其市に新たに公娼を置んとす。吾黨の人起り立ち、一度び之を擊倒す。然れども、其計畫尙ほ地中に水のくゞるが如く、思ひの外の潛勢力あり。余、つゝしんで其置娼の理由を問へば、之によりて市の入金を增し、市の經濟を好くせんと云ふにあり。あゝ、經濟と道德との相離るゝこと、一に何んぞ此に至るや。それ、一家に、放蕩息子を出して以て其家の入金を殖さんとするものはあらじ、一市一都の經濟、何をもてか亦た之れに異ならん。たとひ幾分の賦金を增すことを得るとも、他に於て多くの稅金を減ぜんこと明白なり。人民放蕩に流れ、遊惰に夜を明かして、而して其收入の增加すべき理由あらんや。既に、人民個々の收入に減ずる所ろあらば、隨ひて市の收入に減ずる所ろあらんこと亦必せり。

たとひ、其因果直ちに此如く應報せずとも、久しうして遂に此如くあらんは、天を指さして高しと云ふに異ならず、何人か能く之を疑ふことを得ん。然るに、市長、參事會員にして、此明白の理合を悟ることを得ざるものは、其智の暗きにはあらず、其道念の明らかならざる也。道念明らかならざれば、極めて明白なる眞理をも誤解す、最上の智は最上の德なり、不善にして賢なりと云ふとも余は信ずること能はず、アリストトルと共に、不德は即はち大愚なりと言はんと欲す。彼の置娼家亦曰く、敎育家が其子弟の爲に之に反對するは甚はだ笑ふべし、凡そ敎育家は、たとひ公娼ありとも、其子弟が之に迷はざるほどに敎化せざる可らず、娼を無くして初めて之に迷ふことなからしめんとするは其敎育上の熱心足らざる也と。余は之に孟母の例を告置たり。孟母、惡風を遠ざからんが爲に三たび其家を遷す、子をして惡風に遠ざからしめ以て之を善導せんとするは、敎育家の弱點なりや。果して然らば、孟母を賢なりと言ふ可らず。彼の置娼家は亦曰く、廢娼家が、公娼を廢して風儀を好くせんとするは不可なり、先づ風儀を好くしたるのちに、漸次に公唱を廢すべしと。余は之に一例

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

を告置たり、云く、余が鄕に小さき川あり、頑童其水源に粘土を混じ、水流を濁らす、川下に一女洗濯を止めて之を制すれば、頑童の云く、君何んぞ、其水を清まして洗濯せざる、其水清まば則はち余も亦之を止むべしと。置娼論者は、此の頑童の兄弟なり。

（七十三）都門及九州の青年男女

三池、柳川、熊本より、久留米、福岡に至る邊り、男女間の交際に付き、吾等關東の旅客を驚かすもの多し。其交際の何如にも淡泊にして、十七八の少年男女、相話し、毫も憶面なきの狀態など、驚事の一つなり、而して、傍觀者の之を見るも亦た毫も意に介せざるもの丶如し。即はち、九州此邊に於ける十七八の男女は、東京に於て十一二才の男女が間に行はるべきほどの交際を認許せらる丶也。東京の路を行き、不快に堪へざるの一事は、男子が、女性に注目する眼付は如何にも面白からざるにあり。殊に、職人躰の男に至りては、妙齡、年壯の婦人を見て、何事か獨語邪評せざるは、殆んど稀なり。もし、年少男女が相伴侶するを見ば、たとひ明かに鴛鴦の夫婦らしく見ゆる所ろのものなりとも、尙之に對して不潔の評を施こす。況んや、年頃の男女、書生らしき男女が、路上に相話するを見聞するに於てをや。余は如此き際に於ける東京人士の惡口を聞くに堪へざるもの也。而して九州に入れば頓に此風を滅す、何等の快事ぞや。思ふに、此は、むかし、青年男女の風儀を嚴制し、年少男子が、女性に溺る丶如きは、武士が汚泥の中に沒するよりも尙ほ見惡くしと言はやし、思の外に其の間柄を淸く維持し得たるの結果なるべし。淨瑠璃によりて、男女間のいたづら事を賞めそやしたる地方と、割腹、仲間外れなどの刑罰をもて、淫奔を嚴禁したる地方の風儀とは、之を恥ると、之を誇るとの大懸隔を生ず。公娼を廢するのち、よし密娼を生ずるとも、密なるもの、公なるものに優るは即はち之が爲め也。

（七十四）百二都城可憐孃

余は、遂に、鹿兒嶋に渡ることを得ざりき。之れ、非常の遺憾なり。或人、余に語りて曰く、君が、百二都城に散落せる、半開の櫻花片々たるを見ざるを惜しむと。余問ふ、之れ何の意ぞや。或人の曰く、西南の役、年少血氣の壯士多く戰死し、

家に許婚の乙女を遣す、試みに若し鹿島城山に登らば、累々たる墓石に、極めて若き人の年齢を標して、下に一杯の死灰を空しく埋めたるもの最と多きを見ん、而して、二月、桃の開く初め、三月、櫻の咲ふ比ほひ、枝を挿して、妙齢の寡婦が之に詣づるを見ん、之れ何等慘澹たる光景ぞ。未曾て手を握らざるに、良人の全軀解けて土となりぬ、肥后の草徒らに肥え、日向の山、空しく日光に面す、勇ましき出陣の御裝ほひを見奉まつりてより、凱歌の聲を聞かずして、死馬の長嘶するを聞き、恨夢とこしえに覺めず、殘懷今に至りて晴れざるとぞ。左れど、既に一と度び許嫁の榮を負ひたるものは、尙ほ可なり、何んとなれば、良人既に死すとも、其姿尙ほ髣髴として、常に胸裏にあれば也。たゞ彼の一生獨軀を衞りて絕えて丈夫を併とせざる婦人に至りては、尤とも憫れむべし。自から獨棲を擇ぶはよし、勢ほひ然せざる可らざるは悲しきとにあらずや。鹿島縣下、現に此類の女子多し。十年の頃ろ、十三四歳以下にてありし青年男子は、今や二十八九歳なり、此の男子は無論其の妻を要す。其妻は大抵二十歳以下なるべし。彼の二十歳以上三十歳に至る婦人は、鹿島縣下に於ては、天定の餘り者となりぬ、其の擇ぶべき男子とゝにあるとなし。偶たま格を下り、非士族の士民に婚するもの、父は、鄕黨の輿論に逆らつて、縣を出で他所に婚するものはありといへど、如此きは彼地方に於ける第二流の女性のみ。若し夫れ名門豪家の令孃にして、天秀性美の姿あらんもの、舞ひ下りて泥中に泳ぐと能はず、飛んで欄外に出る能はず、空しく籠の內に閉ぢこもりて、天外の小鳥雌雄快ちよく舞ひ遊ぶを羨やむもの尤とも多しとぞ。あゝ、此等不幸の人の爲に獻身盡力するものなかる可らず。彼等は死せる男子、又は世に存ぜざる大丈夫の爲に節を立つ、天下何處にか之が教育利導に一生を捐てんとする義俠者ある。余は、先づその義俠者の注意を促がすものなり。

（七十五）九州福音同盟會

四月廿二日より廿五日に至る四日間、筑前福岡に於て、九州基督信徒の第二回福音同盟會あり。余、たま〳〵之に會す。曩に大坂に於て組合教會の年會にあひ、今は平野次郎の故鄉に於て九州男女の宗教大會に臨む。前后を比較し、將來を察して、感慨大方ならず。大坂の會は、紳士の會なりき、福岡

の會は青年の會なりき。大坂の會は熱田を耕やし貯藏を所有し最早や多少老成せる種まき人の懇談會の如く、福岡の會は殖民地を考がえ、移住策を計り、荒蕪開拓の方法を案ずる、血氣勃々たる屯田兵が討論會の如くなりき。夫れ、九州は日本人民の豪骨なり、此骨容易すく曲らずして、日本人則はち强健なるとを得。四國には、辨士を得ん、中國には藝人を得ん、關東には才子を得ん、奥州には君子及學者を得ん、北海道には鮭と荒熊とを得ん、たゞ夫れ九州には、豪骨男女を得ざる可らず。而して、此豪骨强きまゝに聖化し、其堂々たる元氣精神に、水の洗禮を施こし、勇に愛を兼ね、氣骨に信仰を合せ、獻身に望を得せしめずんばある可らず。九州傳道の事、重任且つ多望ありと云ふべし。而して、本年に至り、其景況俄然一進し、驚ろくべき元氣を示しぬ。特に其の青年信徒の狀況を觀るもの、誰か爽快を感ぜざらん。余一日大親睦會に臨み、青年諸君に擔ぎ上げられ、手鞠の如く空中に弄あそばれたり。其遊戲を見れば、八九歲の小供の如し、而も其髯猛々、關將軍に似たるものなきにあらず。一夜轉じて此の諸君が祈禱會に臨めば、沈々嚴肅、宛がら聖敎徒の集會に似たり、たゞ其祈るや熱情勃發、四五人同時に祈りて、他の聲を聞くと能はざるの狀ある也。余、此の景況を目耳して獨り靜かに跪まづき、九州及び大日本の爲に感謝しぬ。あゝ我國の前途多望なる哉。

（七十六）法治人民の精髓

東京にて「我國の將來」に關し議論あり、日本人民が法治を重んぜざると、歐米人が之を重んずるとの相違に付きて討論あるよしに傳聞す。余は双方の論據を未だ見ざれど、愛山生が、國民新聞に投じたる評書によりて大躰を推するに、諸君の論尙ほ一要點を欠くものに似たり。夫れ、歐米人が、法を重んずるの精髓は、天に上帝あるとを信ずるの信仰より生來す。無神論の末は、佛民の大破壞なり。神なき國民にして、立憲政躰の良結果を奏したるものは未だ曾て有らざる也。世人此の理を辨ぜず、基督敎徒は、國家を愛重せずと云ふ、此れ、歷史を知らず、今日海外の實況を知らず、人の情の心理を知らざる迂論なり。國家の大改革を促がすものは、蓋し基督敎徒ならん、然れども、大改革を斷行するの曉まで、よく國法を重んじ、强忍して之に從ふものは、即はち亦た此の敎

徒ならん。凡そ、單純なる自由論は極めて危ふし。人の個人的自由を主張するや、同時に一物頭上にありて、此を制裁するもの存す、その感覺なかる可らず。然らずば、自由は我儘となり、我儘は放埒となり、遂に國民亂離分解するに至らん。經世家よく此弊を洞見し、則はち個人的自由の上に、國家主義なるものを置んとす。然れども、此れ未だ可ならず、到底二者の間だに衝突なかる可らず。國家を中心とすると、個人を中心とすると何をもてか遂に相ひ調和するを得んや。個人を中心とするは、嚴そかなる立論なり、尤とも高尙なる理論之に同意すべし。然れども、只だ其の單純なる個人的自由論のみにては、遂に國家を害し、法治を輕んじ、國民個々勝手我儘の放埒に流るゝことあらんは必せり。此れ、人造的の國家論の外に、眞によく人の頭上に君臨して盛んに其利己心を制止するの一重物なかる可らず。則はち此れ有神の感想なり。歐米人悉とく神を信ずるにあらず、然れども此の信仰尤とも勢力を得て、彼輩の如き、多血多情なる動物的の强意志を制し、以てよく法を重んずるに至らしむる也。此時に當りて、彼輩が能く法を重んずるは、其法を重んずる精神あるによると云ふとも解を得ず。そは其利己心あり勘辨あるによると云ふに至ては更に誤まれり。蓋し他に一大勢力の自から由來する所ろのものあつて存す、則はち其の神を信ずるの信仰これ也。土佐近來、傳道上非常の好景況にて、敎に入るもの流れ込むに似たりとぞ。彼の個人的自由論者にして神を信ずるに至るは、此上なき慶事なり。九州、追々に開け、最早や昔日の尊藩主義、大にしては、其國家主義を以て、個人が自由思想の發達を防止すると能はず、もし其儘に一任せば、九州の團結的遺傳物を雲消霧散して、而して之に代るべきものなく、人々遂に無制裁の我儘ものとならんとす、此時に當ては、骨の豪なるものほど、厄介の甚しきものなり。然るに、天、此の一髮危急の時を置てず、今や九州に宗敎的思想、潮の登るが如く進歩し、有神的意識、之より一生面を開かんとす。あゝ誰か日本の將來に付きて悲しき聲を發するものぞ。日本は東洋の傳道師なり、而して此の傳道師の率先者、四國九州に多からんとす。感謝すべし、慶賀すべし、望多かるべし。余は或日雀躍して此の事を思ひ懷ひぬ。

（七十七）撰擧後の狂壯士

福岡人は總じて進歩主義なり、玄洋社員と雖ども、決して保守の人にあらず。故に、彼等亦た餘り偏固ならず、随つて可成り温和なり、絶えて暴々しき事を好まざりし也。然るに撰擧競爭に一と度び血を汚してより、感情やゝともすれば激し易く、忽まちにして狂氣じみたるとを爲す。之を例ふるに、九州福音同盟會の演説會に暴れ、必らずしも宗教に反抗するにあらず、只何んとなく騒ぎたげにして騒ぎたり。余は此際に於ける同盟會の血氣の青年が、好く法を守りて之に應ぜざりしに感服するもの也。最後、福岡青年の氣違ひもの、同盟會の青年を途に要し、棒を以て某等二人の頭を撃ち割りたり。同盟會の青年が涙を飲み、此に至りても、尚ほ之を忍びたるに感服す。如此き忍耐は、信仰あり、よく人を愛するの青年にして初めて爲すとを得。暴虎憑河は、神なき血氣浮薄の青年が虚勇なり。今後政界益々多事ならんとす、彼の信仰なき多感多情の人、その折々に激し慣れて、遂に、一種の瘋癲者とならんとす。彼等は細密に思慮すると能はず、遠大の事に慷慨すると能はず、たゞ一日一時の小壯士となり、蚊蜂のうめきに狂呼して、あたら青年の一生を空費せんとす。皆これ、信仰なき浮薄輕騒の結果也。

迎春行の旅客巖本善治氏は西南の巡廻全く終りて去る十二日恙なく歸京せり因て辱知の諸君に報ず

社員

迎春孤客を迎ふ

天知子

遊人五陵に去る、寶劍直千金、手を分つ時脱して相贈る、平生一片の心。」繰返し低吟しつゝ噞喰ひしめて君を車上に送りたるは、寒紅梅も息つく頃なりし、爾來君は使命の重きを擔ひ、夜寢ねず晝休まず、舌を爛らして義に叫び、涙を掉ふて愛に說き、吾黨主義の代表者として君が足跡を印し來られしを深く感謝す、君が深刻なる觀察力を以て、君が多感の情緒を以て、君が高潔なる道念を以て、將た君が親友的の慈眼を以て、胸間溢るゝ所の感慨は迎春行紀文の盡す所に非ざるを知る、然れども吾人は常に其万分一の微光を以て同情洞察する所少なからず、君が至る所非常に觀迎せられ、君が說く所必ず至誠を印刻せられし事を常に聽く、吾黨三たび感謝の涙を捧げざるを得ず、君が櫛風沐雨、外に身を忘るゝの時は、君が同志の人等は嚴肅至誠、内に專念熱禱せるの時なるとを知る、今や君五十日餘の急行羇旅を卒へて歸へる、旅日長きに非ずと雖へども果して人世五十年の眞理を目擊せられしならん、必らずや顧みて内に養ひ外に頷するもの多かりしならん、相見て無言莞爾たるの時、君見よ東都の櫻早く散りて三日見ぬ間の風光あるとを、今ぞ葉末蓁々たる閑境に舟を浮べて、君が孤影の一旅客を歡迎慰勞せずんば非ず。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

兒籃

わが宿の花

第四回（上）　若松しづ子

これから三四ヶ月經て後ルーセがある日の午後部屋へ這入り升と、人知れずシク〳〵泣く聲のするに驚ろき升た。足を止めて耳を澄すと、其聲は自分の部屋の隣にある弟アーサの寐間の方に聞え升た。そこで、戸口へ佇んで徐かに音なつて見升と、何とも返事はなく、たゞ泣聲は止んでシンとして仕舞ひ升た。ルーセは不審にも思ひ、且つ何事かと心を痛めつゝ戸の邊りに躊躇して居り升た。そして心の中に「あの子が泣とは一と通りのとではあるまい、男の兒は女の兒と違つて、中〳〵些細の事に涙は零さないからと思つて居升た。思ひ直して、アーサの悲嘆の原因をそれとはなしに探らふと思ひ、下へ降りて行升て、出會つた妹ハテに、

ハテさん、アーサさんはどこか、知つて居升か？

アー、たつた今まで自分の部屋で唱歌歌つて居ましたつけよ。

ルーセは心に、歌もよく〳〵悲しひ歌だ、ハテさんは自分がいつも元氣が好ものだから泣聲までが嬉しく聞こへるのだと思ひ升た。ハテは急に思ひ起した顔つきで、

オヤ、アーサさんの話しをしたら、思ひ出したけれど、あの人の靴足袋ッてば、みんな切れつちまつて、穴の開かないのはなかつたつけ。おまけにこの節は、寒くなつて、素足じや氣の毒だわ。すつかり忘れつちまつたんだもの。

スルト、リベリカが、

わたしがハテさんのお世話になつて居るんでなくつて有難いと。

わたしも姉さんなんかの世話にならないで有難いわ、いつまでたつたつて、埒が開はしないもの、姉さんに靴足袋を繕ふ處をおめに掛けませうか、姉さんがオヤ、マアーなんていつて入しやる中にあの穴なんか一ッ殘ず繼でしまい升わ。

とハテが、いつもの調子で遣り込めると、リベカが、？

あたし、オヤ、マアー、なんていつて居やしませんわ。そしてあたしが魯鈍たつて、あたしの責任じやありやしないわ、さういふ性分だもの

それじや、わたしならも出直して、モウちつと手ばしこい性分になつて來るわ。

とハテが言ひ升と、リベカも餘りのことに口を鉗んで、默つて居升た。ハテのかういふ調子が中〳〵不深切でした。ルーセは

リベカさんは中〳〵腹をお立なさらないと、わたしなんかあんなに勘忍深いと好いと思ひ升わ。

リベカは有難さうにルーセの顏を見升と、ハテはそれを見て窘られた樣な心地がしました。

ア、本當に、わたしは人の氣に障ると斗りいつて居るよ。自分じや誰の心持もわるくする氣はないんだけれど、蜖一疋だつて態々殺しやしないわ。サア、姉さん仲直りしませう。ネイ？

といつて、膝の上から靴足袋やら、糸捲やら、指貫、鋏なとを落しながら、リベカの前へお辭儀をし升た。ハテが後悔半分、冗談半分リベカの顏を見擧たか愛いゝ顏を見ては、誰も怒つて居ることが出來ませんかつたが、況して辛抱強い姉は直ぐ打解けて、和睦が出來升た。そしてハテは二分も經つ中に、人の機嫌を損ねて、後悔して、赦して貰つたといふことを悉く忘れてしまい升た。先づ元の繼仕事に復しはしたもの〻、それには身が這入らず、前へ屈んで居る處へ、肩の邊から垂れ掛つて、膝の上まで來た奇麗な髮を嬉しさうに、と見かふ見して、鋏を持て頻りにおもちやにして居り升た。そして

メレさんが、わたしの髮が、大變奇麗だつて………

リベカは、

本當にそうよ。

ハテがまた、

だけれど、ルーセさんの髮ほど奇麗じやないは、天人でもなけりや、あんな好い髮の人誰だつて有りやしないわ。

リベカが、

あれ、天人だつて、天人なんか髮持つて升かネい、人魚のといつてるんじやなくつて？

ハテは抱腹して、仕事も、糸捲も、鋏もみんな下へ落し、

アレ、リベカさんが人魚だつてさ！、そんなに笑わせられると死んでしまい升よ。

こんどはルーセもリベカも、一處に笑ひ升た。ハテの打興じる樣が餘り無邪氣でしたから、一同がそれに連れられたので

した。

ルーセは、其中に。

此割じや其靴足袋は容易なこつちや出來上りませんよ。ドレ、わたしがして見ませう。

直き繕ひ終つて、それを機會に、再びアーサの部屋の戸口まで行升た。そして外から、

　アーサさん、靴足袋が出來ましたよ。

弟は戸を少し開け、請取らふとして手を外へ出し升た。ルーセは、

　アレ、わたしも少し入れて頂戴な、いけないの？

アーサは、それを強いて止めもせず、這入らせて置升たが、ルーセはいつもの通り氣を利かせて、態と其顔の見へない方へ腰をかけ、手製の本箱に僅少ながら小奇麗に並らべた書物のとに付て、何か氣輕さうに一言、二言いひ升たが、何の返事も有ませんかつた。其中突然に、

　ルーセさん、男の兒なんて、いくつになれば、金の儲けられる樣になるでせう？

　さうチ、わたしもよくは知らないの、隨分早くつから始めるのも有るようですチ。

　僕位の年から？、

　まさか、そんなに年の行ない中からじやないだらうと思ひ升わ、だけど、何しにお金がいるの？

　僕、自分のに欲しいんじやないの。

といつて、後は言ひませんかつた。ルーセも、弟の平常の氣質を知つて居升たから、強いて何故と、問ひませんかつた。さうするとアーサは又、

　僕位の年の兒をお店で抱へて呉ないでせうか？

　エー、それは抱へるとはかゝへるでせうが、お金はたんと出しはしませんよ。食料と着物丈貰ふとが出來れば、好位で、ヒヨツトすると、たし前をしなければならない位でせうよ。

　さう？、姉さん知つて入つしやるの？、本當にさうだらうか？。それは知つて居る譯が有るの、ジヨンソンさんがさういひ升たもの。あそこの兒をニユーヨークかどこかへ奉公に遣度つて、問合して、おとうさまに話して居升たもの。

アーサは、落膽したといふ調子で、

僕、兎に角、邪摩にならない丈でも好いと思ふの。

邪魔になるなんて、何いつてるの？、アーサさん。

なんでもないけど、わたし丈でも、片がつけば好と思ふの。

わたしも、先にはさう思つたけれど、好くないと氣がついたの、神さまがわたしたちをみんな丁度適當な位置にお置なさつたのだから、矢張り愈快なのですわ。

わたしたちの樣に貧乏でも愈快なの？

神さまがおゆるしなすつて貧乏なのですもの。

とルーセがいつた聲が、それ故愈快だといはぬ許りの調子でした。アーサは、益々眞面目に、

エー、それは本當なとだらうけれど、大變苦しいと、アノネ、あなたなんか先から知つておいでなさつたかも知れないけれど、僕はけふまでおとうさまが借財があるとなんか一向知らなかつたんです。さつきから、それを考へて、ことらに、ノラクラしてないで、何かおとうさんの手助でもしたいと思つて居たんです、

アーサさん、それを知つては却つてわるかつたのね、あたしだつて、此の間まで知らないで居たんですよ。それを知つてから、急に年をとつた樣な氣がするのですもの。

僕も矢張りそんな氣がするの、僕おとうさまさへ好つて仰しやれば退校して、そしておとうさまの手つだいをするの、そうして僕モウ大學へ這入るとなんど止にしませう。

アレ、アーサさん、大學へ行ないつて？おとうさまは始終遣るつていつて入つしやるし、アーサさんはこれ程の時分からそんな話し許りして居たじやないか？

それじや、モウこれからその話しは一切罷にしてしまいませうよ。

おとうさまはこのとを御承知になつたら、キツトお心持を惡るくなさるよ。おとうさまの威勢を挫かないで、もたせて置くのは、わたしたちもいとしがつて下さると一つですもの、わたしたちの大きな望が思ひ通り達しないなどゝいへば大變お躰に障るんですもの。

だつて、僕はモウ自分の義務丈はチヤンと認がついたから、大學へなんか行ないで、家に居て、おとうさまの助けをし升わ。

アーサさんを大學へ遣らないで置くものか、わたしこそ丈

夫も丈夫なり、年も上だから、どふかしてお金儲けなんぞは、キット儲けて見せ升よ。

アーサはニコリと笑んで、頭を振り升た。

兎も角おとうさまには、なんとも言ないで置ませうよ。大した借財でもないでせうし、お立にだん〴〵おききおり升から、さうかふする中に、わたしが教師にでもなつて御覽あさい、お金が鈴なりになり升から。

雜録

女子教育に於ける經歷及經驗

第一　經歷のあらまし(下)　櫻井ちか子

北海道に於て

北海道に至り居を函館に占め我良人は直接傳道に從事し、我は師範學校女子部の教諭に務めたりき、かくして三年を送りしが、偶良人肺疾を病み、暖國に行きて養生せざれは全快の見込なしとの醫師の言により、恰も此時板垣伯東都にありて傳道者を高知に引かんとする相談ありしを以て、早速此相談に應じ十七年十一月函館の地を去れり、

我の北海道に行くや、前に述べし如く一の目的を抱いて赴きしあり、而して今去るや此目的を達せずして去るは我は遺憾に堪へざりしなり、そは從來該地に出身し或は該地に志を携へて赴く有爲の青年が其夫人を迎へんとするに該地に適當ある人なきにより、之を內地より迎ふるや夫人は其身該地の氣候に適當せざるよりして自然該地に永住するの心なく、折もあらば其良人に該地を去り內地にて事に從はんことを勸むるにより知らず〳〵夫人の引力にひきつけられ何時しか該地を去りて當初有したりし志望を達せざることゝあり、從て該地の進歩を遲からしむる傾あるより我は之を殘念に思ひ、該地の要所に一女學校を起し該地に出生せし婦人を敎育して該地の爲めに志を有する青年に配せしむる良夫人を出し該地の爲めに微力を盡さんと計畫せしなり、故に我の該地に赴くや之を朝野の志士に相談し、朝野の志士も大に之を贊成せられしも時運未だ來らざりしにや、之を果さずして該地を去ることゝなりたりしなり是れ我該地へ携へし一の目的にしてかへす〴〵も遂せざりしは殘念なりと思ふなり、此事は少しく女子教育に於ける經歷とは緣遠きも、北海道のために事を計畫

する人々の参考にもとかゝげ侍る。

大坂一致女學校

明治十八年、高知より移り、伊豫の太洲にありて、我良人の傳道の補助をなしたりしが、此時に大坂在留の米國人ガービン孃大坂に一女學校を開かんとするの計畫をせられ、我に、來て其創立の勞に取らんことを求めらる、我は固より好む所なれば即ち之を承諾し大坂に赴き、ガービン孃と共に其設立に着手したり、此學校は前述の如くガービン孃一人の發起になりたるものにして、他に別段助力者とてなかりしかば孃は熱心にあらんかぎり力を盡して此事に當られしも何分資本十分ならざるにより、始のほどは不便を忍びて川口居留地なる孃の居宅を以て校舎に當てしも、居留地には他の二三の女學校もありて、甚だ混雜の氣味あり、且居留地といへば市街の人々には外國の如き心を持たしむるにより、校舎を市街の地に移さんと企てしが市街の地にては學校に適當なるが如き家屋は百金以上の敷金を出さゞれば貸與せざるにより、此金の支出に困じ如何にせば宜しからんと苦慮せしが我の大洲に在りしとき相親める友中野光子と一日メレー、ライオンの傳記を讀みしに、光子大に之れに感じ我に語りて、我にして、他に女學校を設立せんには幾分の助力を爲さんと、いひしとあるを思ひ出し、書を裁して光子に寄せ、百金調達の依賴をなせしが、光子は直ちに右の金額を懷にして大坂に來り之を我校に寄付したり我は大に之れがために力を得て、早速家を土佐堀に賃借して身躬ら之れに移りしにガービン孃も又此處に同居せられたり此時我は孃の熱心いよ〳〵盛なるを見て之れがために又大に勵まされたり、そは孃の此家に移らんとするに當り我は此家が學校として不可なきや孃が居住せんには不便多かるべしといひしに孃は答へて、學校のために家を借るのみ、故に敎場と宿寄舍とに適せば即ち可なり、若し我にして居住に便利よき家を求めんか居留地に住するとを得ざれど生徒等の便益のためならんには校內の不便も不便とするに足らず、故に我のために寢食する場所あれば足れりと、孃の此熱心はたゞに我をのみ勵ましたるにあらず、現今の一致女學校の校主なる阿波松之助君をも感ぜしめ、君は當時此校に關係なかりしも爲めに金七十五圓を出して當時不足を感じ居りたる敎員の俸給を補助せられたりき、

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

此家にて教育に從事すること二年余にして生徒次第に増加し、爲めに校舍狹隘不便を覺ゆるに至りしが、此時に當りて米國傳道會社より爾來此校に向て保護を與ふることゝなり、且有志者の助力をも得たりしにより地を大坂城の東方清堀村に購ひ一校舍に新築したり、是れ目今の一致女學校なり、此新校舍に移住して任務を取ること更に一年余なりしが、圖りがたき、世の中の常とて此時已むを得ざる出來事に際會し明治廿二年四月、此校を退くことゝなりぬ、爾後今日にいたるまで、我良人の傳道に伴ふのみにして女子教育には別段關係したることなし。

史傳

僧ルーサーの母（上）

無名氏譯

世をうれひ人をゝかふもの、何をもて其胸中の累塊を澆がんや。すでに竹林のうちに隱れて世の外の風狂をつくさむは、われらの希ふところにあらず。曷ぞまた狂水に醉ふことを須ゐん。蓋し慈母の胸中より涌き出る「愛」の泉こそ、われらが無限に汲むべきものなるべけれ。僧ルーサーの名はすでに讀者のよく知るところなり、しばらく讀者と共に其母を學で彼が氣節の天地を貫くを見ばや。

匹夫にして百世の師となり、一言にして天下の法となるとはいひけむ、「サクソニー」なる「エスレーベン」の寒村に起りて天地萬邦を振盪したるかの寂しき一僧の生れしは、西暦千四百八十三年十二月十日の夜のことなりけり、母マーガレット、リンデマンは「ニユースタツド」の農の女にしてヂヨン、ルーサーに嫁ぎしが、當時その腹中にかゝる叫天の巨僧

を宿したりとは夢にだに想はざりき。この日恰も月曜にあたりしかば父母ともにいたく打喜び、直に「セント、ピーター」の近寺に趣きて洗禮を得させたるのち、その夕うまれたりといふ故聖の名に因みてマーチンといふをこの雛兒に命じたり。ルーサーの一傳記を作りしオーヂンのいふところに據れば、母マーガレットもと浴塲の婢なりしも謹愼堅固にて敬神の少女なりしといふ。マーガレットのジヨン、ルーサーに嫁ぎし後、若干もなくジヨンはなにがしの小吏となり其所得の剩餘を積みて僅少なる地所を購ひ求め、野老村夫の間にもきこゑよかりしが、マーチンは其七兒のうちの長男にして内二人は疫病に物故り一人の妹はニコラスといふものに嫁ぎ一人の妹はルーベルといふ書役の妻となれり。父ジヨンは身窮乏のうちにありといへども、兒等をして食を獲るが爲に働かしめずこれを學校におくりて單に後日の成身を待ちぬ。ジヨン曾て危篤の疾病にかゝりしとき、村寺の老僧かれに教話など説ききかせ何物か寺に形見として遺されよといひけるに、「拙者子供の多ければ一物も殘るべき様なし、折角の義ながら御無用なり」といひしとぞ。さはあれどジヨンは敬神の人にして觀經誦歌のみを宗教の面目とおもはず、其野訥なる胸中にも神の御心を信じ奉りて未來永遠の希望を抱き、曉早く斧を携へて山に入れば、マーガレットも薪を負ひて遲く家に歸り、其貧困の故より日々勞作を事として其間五八の小兒を敎へむこと容易の業にあらず。渠儕は其小兒を育ふこと親切を盡せども、これを教ゆること又甚だきびしく、一度ルーサーの棗を盜みしとき血の出る迄打着したりといへり。かのルーサーが殘しおける言葉の中にも、過を犯して父の怒を招きたるときは幾度か「チユニー」の隅に藏るといひけむ、されど近時の教育法を以て渠儕が過酷なるを責めむは烏滸なり。かの信義孝道を敎ゆるの極、過酷殘虐のさかひに流れたるは、四百年のむかし殊に「ジヤーマニー」に於て世は封建のもとに屈みたりし頃の通弊といふべく、兩親師匠を慕ふといはんよりは恐るといはんかた孝順の本義となれりけり。傳ふるところによれば父しば〳〵苦難呵責のうちにルーサーを置くとき、母は「キツス」もて其痛苦の暗涙をぬぐひしといふ。しかのみならず憐むべきマーチンが學校にありて呫嗶に餘念なき時といへども、日々十數度の呵責をのがるゝ能はず。かれやは

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

らかにこの舊夢を想記して曰く、兒童を罰するはまことによし、されど又彼等を愛せざるべからずと。げにやこれら幼き頃の經驗は後日盤根錯節にあたり能く忍び克く耐ゆるの地となりしや疑ひなし、たゞ其經驗の非理なりしは終生忘るべからざる悲哀の忘形見となれりけり。然れどもこれら悲哀の影の幼時の經驗を弔ふべきのみならんや。そのころ最善なる「クリスチアン」の母といへども「人生」ある行燈のあかりに窺へば一の奴隷といふに過ぎず。されば打着呵責を誤りて、天地の間わづか幾人なる愛兒を敎ゆるの良具と思ひしは世にいたましき限りなるべし。

理學

疼痛と苦痛

馨子

吾人が肉躰に、受る所の疼痛は何ぞ、生理學者は云ふ、汎有知覺の一變態にして、神經興奮の過度なるが爲めに、感ずる所の一種の感覺なりと、されば若し、此疼痛なる者なきときは如何、我等が爲めに、利なりや、不利なりや、試に思はれよ、我身躰を、切るも、刺すも、打つも擲くも、等しく疼痛を感ぜず、熱湯に入るも、烈火に投ずるも、亦等しく熱痛を感ぜざるものありとせば、我等が肉躰は果して如何ぞや、必ず完全なるを得ざらむ、江戸子は入俗の時身躰を爛かし、貪眠家は巨燵にて、手足を火傷し、白刄の下に、泰然として動かざる、僞英勇も出で來る可く、股肉を截て食する、貧民も少なからざらむ、情に死し、貧に死し、怒て死し、悼で死し、變死者は日一日と増加し、外科醫と寺僧は、嬉ぶことあらむが、此世界の光景は、將に如何に變り行く可きや、實に寒心せざるを得ず、然るに我等の肉躰をして、かゝる悲境に陷らざらしむるものは、全く此の疼痛なる特異感覺あるが爲めなり、故に疼痛は、忠實なる良醫の如く、我等が肉躰は、之が爲めに活き、之が爲めに救はる而して有形の肉躰上に疼痛あるが如く、無形の精神上に於ても、苦痛なるものありて、常に我等が、非行を是正す、我等は之が爲めに悔ひ、之が爲めに改む、我等が靈魂は、之に由て活き、之に由て救はる、吾人は苦痛及疼痛なる天賜に向て、謹で我神に謝せざるを得ざるなり。

小說

黑頭巾

第六回

十八公子譯

かく、村中にひろごりける面しろからぬ風評のことをかたり出でし時には、渠女が双頰に微紅を潮しぬ。されどフーパー氏が柔和忍辱のこゝろは尙彼が上をはなれざりしかば、彼は少しも氣色ばみもせで、また嫣然微笑みぬ、何時にても覆巾の下なる黑陰々たる間よりきらめきいづる一閃の微光とも見るべかりし、かの例のかなしげなる微笑をもらしぬ。

「われ、たゞ悲しさのあまり、わが顏をうちかへしたりとすれば、そはまことに所以なきことにあらず。されどよしや、人知れぬ罪のために掩ひかくしたりとするも、そは生あるものゝなさぬことにもあるまじう思はるゝに。

わけもなういひ放ちたる牧師は、その打ち見こそ柔しかりけれ。固く執りては少しも心を動かさず、渠女が千言萬言の諫諍をもすげなう退けたりしかば、イリザベスも今はせん方なくて默然として止みぬ。かくて彼女は霎時の間は心を失ひたらんやうに見えたりしが、そはいと愛しと思ひけるその人をば、他にふかき理由のあからんには、精神病の兆候ともみへべかりしものすごき幻影の裡より、引き返へさん手段もがなと只すら思ひにしづみしがためならむ。

牧師にもまさりて心づよかりし渠女すら今は頰をばつたふ紅淚をせきかねて、ウットリとして黑覆巾をうちまもりしその刹那、夕暮の空に斜陽の影の消えなんよりもあはたゞしく、一塲の恐怖心、俄かに渠女が周圍に落ちぬ。渠はたちあがりぬ。身をふるはして牧師が前にッゝ立ちぬ。

「御身は如何に思ひ玉ふぞ」と、牧師は愁然としてうち問ひしかど、渠女は答もなさで双の手もて眼を掩ひつゝ、室をば出でなんとするにぞ、牧師はあはてゝ、進みより渠女が腕をば捉らへぬ。

「ゆるし玉へイリサベス!。われをば見棄て玉ふなよ。この世にてこそ、この覆巾が二人の中をへだつるとも。何分われを信じ玉へ。これより後はわれらが魂と魂との間には些の陰翳たる影もなく、わが顏の上にも些の覆巾もあらざるべし。こはこれたゞ此の世の覆巾のみ、――長へにかゝれるに

はあらずかし！噫！御身は、わがたゞ一人して、この黑覆巾のにあらんとのいと物凄く、いと恐ろしう思ふことを知り玉ふまじ。かゝるあはれはかなき物蔭に我身一つをすておき玉ふな。

「たゞ一度、覆巾を上げ玉ひてわが顏を見玉へかし。」

「いかで、そは叶はず。」

「さらば、さらば。」

渠女はにぎられし手をふり揺きて、黑覆巾の奥底まで見透うしけんやうに、しばしが間、打戰ふ眼をば彼方にむけて戶口のあたりにたちとゞまりしが、やがて徐かに歸りさりぬ。かゝる悲境にありてすらフーパー氏は、かの一塲の恐怖は己を愛する人々とおのれとの間に陰々たる影をなぐべけれど、そはせんなし。己れを幸福の境界よりはなれしむるは、たゞ塵の世の有象のものゝわざなれば、何かあるべきなど考へつゝひとりみづから打ち笑むのみ。

これより後は、絶えて、フーパー氏が黑覆巾にたづさわらんとこゝろむる人もなく、また、かならずかの下に隱されたらんと思はるゝその秘密をば、まのあたり見破らんと企つる人々もあらざりき。さばれ、世の迷信者に立ちこへて物事知れる人々は、かの靈活なる人間の眞面目は失はねど、折々のふる舞に物くるほしき色を帶ぶる。怪しき精神錯亂の類にこそあれといひけれど、大方の人々は、はやフーパー氏を怪しのものと思ひつめけん。彼が道を行くときは、ものしづかに臆病なる輩は、かれを避けんとてまわり道し、さらずは通りちがはんこそいと大胆なる人なれとたゝへらるゝばかりになりゆきて、こゝろやすう街を歩まんこと難くなりゆきしのみか、かの己が大胆にほこり顏なる冒莽なる輩は、彼が、夕暮のそらに寂寞たる墓田の方へ散策する習慣をも廢めしむるにいたりたりき。彼がもの思はしげに墓田の入口によりかゝりて四方を打眺めなんどする折は、何時にても、覆巾の中をさしのぞく人の面の幾何ともなく苔むしたる墓田の蔭よりあらはるゝに、亡せにし人の亡魂、かれをねめつくる恐ろしさに、彼は墓田より逐ひ出されしなりとの噂は、村中に遍くなりしかば。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

批評

油地獄を讀む（三）

透谷

緑雨は果して渾身是諷刺なるや否やを知らず。譬諭に乏しく搆想のゆかしからぬ所より言へば未だ以て諷刺家と稱するには勝へざるべし。然れども油、犬、雨篇を取つて精讀すれば溢るゝばかりに冷罵の口調あるを見ざらんと欲するも得べからず。而して疑ふ彼の冷罵は如何なる對手に向ふて投ぐる礫なるや。對手なくして冷罵すと言はゞ彼は冷罵せんが爲に冷罵し、諷刺せんが爲に諷刺する者にして世は彼を重んずると能はざるべし。對手ありて冷罵すとせば如何なる對手にてやあらむ。對手は能く冷罵者を輕重す可ければ、この吟味も亦た苟且にす可からず。

曰く社界なり。彼は能く現社界を洞察す。特に或る一部分の妖魔を捕捉するの怪力を有す。此點より見れば彼は一個の寫實家なり。油地獄に書生の墮落を描くところなどは宛然たる寫實家なり。然れども彼に寫實家の稱を與ふるは非なり、彼は寫實の點より筆を着せず諷刺の點より筆を着したればなり、唯だ譬諭なきが故に諷刺よりも寫實に近からんとしたるなり。彼は寫實家が社界の實相を描出せんとするが如くならで、諷刺家が世を罵倒せんとて筆を染むるが如くす。彼が胸中を往來する者は人間界の魔窟なり人間界の怪魅なり、心宮内の妖婆なり。彼れ能く是等の者を實存界に活け來つて冷罵輕妙の筆を揮ひ能く人生の實態を描けるもの豈凡筆ならんや。彼は諷刺家と言はるゝと能はず、寫實家と稱るゝと能はず、諷刺家と寫實家を兼有せる小說家と名けなばいかに。

抱一庵の曇天想高く氣秀いで、一世を驚かすに足るべき小說なりしも世は遂に左程に歡迎する事なかりし。其故如何となれば、彼は暗々裡に佛國想を擒ひ入れて奇抜は以て人を驚かすに足りしかども、遂に純然たる日本想の一口劒に及ばざるを奈何せむ。辻淨瑠理巧緻を極めたりしも遂に風流佛に較す可き樣もなし。外國想が日本想の純全なるに加かず、一片相が少くとも圓滿相に加かざるとを是なりと認め得ば、余は緑雨が社界の諸共に認めて妖魔とし魅窟とする處の一片相を取り來つて以て社界全躰を刺すの材料とせるを惜まずんばある可からず。奇想却つて平凡の如くに見え妙刺却つて痴言の如

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

くに聞へ、快罵却つて不平の如くに感ぜらる、斯の如きもの緑雨が撰みたる材料の不自然にして顯著に過ぎたるものなりしことより起るなり。何が故に不自然なりと云ふ、曰く社界の魔毒は緑雨が撰みたる材料の上には商標の如くに見はるれば、之を罵倒するは鴉の黒きを笑ひ、鷺の白きを罵るが如く感ぜらるればなり、罵倒する材料すでに如此なれば其痛罵も的を外れ、諷刺も神に入らざることこそ道理なれ、又た惜しむべし。

惜む、惜む、この諷刺の盈々たる氣を以て譬喩の面を被らず素面にして出たることを。惜しむ惜しむ、この寫實の妙腕を以て徒らに書生の墮落といへる狹まき觀察に偏したることを。君に寫實の能なしとは言はず、天下君を指目するに皮肉家を以てす、君何んすれぞ一蹶して一世を罵倒するの大譬喩を搆へざる。小說評註は些技なり、小說家幾人ありとも未だ罵倒すべき巨幹とはならざるを知らずや、罵倒すべき者あり、爆發彈を行る虛無黨が敵を倒す時に自らも共に倒れて同じく硝煙の中に露と消ゆるの趣味を能く解せば、いざ語らむ、現社界とは言はず、幾千年の過去より幾千年の未來に亘る可き人間の大不調子是なり。

この評を草する時傍らに人あり、余に告げて曰く、駒之助と云ひ貞之進と云ひ、餘りに軟弱なる人物を主人公に取りしにはあらずやと。余笑つて曰く、是れ即ち緑雨が冷罵に長ずる所以なり、緑雨は寫實家の如くに細心あれども、寫實家の如くに自然を獵ること能はず、彼は貞之進を鑄る時既に八萬の書生を罵らんことを思ひ、駒之助を作る時に既に唐樣を學得せる若旦那を痛罵せんとするのみにて、自然不自然は彼に取りて第二の問題なればなりと。

不自然は即ち不自然なから緑雨も亦た全く不哲學的なるにはあらず。駒之助の愛情とその物狂ひを寫せるところ眞に迫りて、露件が悟り過たる戀愛よりも面白し。諷刺を離れ冷罵を離れたるところ斯般の妙趣あり。戲曲的なる犬蓼、寫實的なる油地獄われはあつぱれ明治二十四年の出色文字と信ず。われは此書を評すとは言はず、只だ奥州より歸りて二日、机上の一冊子を取つて讀みしもの即ち此書にてありければ、讀過する數時間に余が腦中に浮び出たる感念を其儘筆に任せて書き了り、思量する暇もあらず、冷罵の事諷刺の事當らざるの說多からむ。識者の是正を待つ。

（完）

孤兒之友

演奏會

婦人レプタ會員の發起にして、本日午後一時京橋區本挽町厚生館に於て。演奏會と云へるを促し、而して其收入は悉く之を孤女學院の教育費の內に義捐し給ふなり。詳細は廣告欄に就て見給ふべし、入場券は我社孤兒の友に於て發賣す。

北海孤兒院林竹太郎君

同君は今度牧師の職を辭して、全力を孤兒の爲に注ぎ給ふなり、今同孤兒院の改正規則を得たれば左に掲ぐ。

北海孤兒院開院及規則改正

本院は天父の冥助と慈善家の輔翼により今度尾濃震災地の孤兒七名を招集して開院するに至れり而して左の如く規則を改正し小作人開拓の方法を廢し岡山孤兒院及震災孤兒院に在る年長兒の北海道開拓を望むものをして本院に移し以て農牧等の業に從事せしめ相互の便益を謀り共に其目的を達せんとす而して尚進んで未だ其處を得ざる天下無數の孤兒を救濟せば復た神榮を顯はすに庶幾からず乎仰ぎ願くは內外慈善の諸君幸に同情を垂れて我儕の微衷を輔翼賛助あらんとをアーメン

明治廿五年四月　北海孤兒院

概則

第一條(目的) 北海道に於て一の孤兒院を設立し本邦無告の孤兒を教養するを以て目的とす

第二條(位置) 本院は北海道膽振國虻田郡虻田村洞爺湖畔字ニナルカに設立す
但當分の內假に同國有珠郡東紋鼈村百廿九番地に置く

第三條(入院) 本院は六歲以上十二歲以下の孤兒は幾名にても入院を許すべし
但時宜により適齡外の孤兒をも入院せしむるとあり

第四條(教育) 本院は基督教主義實業的教育を施し純潔健全なる國民を養成せんとす

第五條(維持) 本院は上は天父の冥助を祈り下は內外慈善家の義捐金品と農牧の收益とを以て之を維持す
但寄附の種類を分ちて臨時(一時即納)豫約(數年分納)の貳種とす

第六條(送金) 郵便爲換を以て寄附金を送る時は北海道膽振國有珠郡西紋鼈郵便電信局へ振込むものとす

女報

可愛子編　(一〇六〇)

●皇太后陛下行啓　皇太后陛下には、去る九日午前九時青山御所御出門にて、濱離宮へ行啓の御途次、芝公園內の彌生館に開會中なる明治美術會の油繪彫刻展覽會へ行啓、十一時頃還啓仰出され、夫より御順路離宮へ行啓あらせられたり、尙當日御土產金として金百圓を下賜せらる。

●芝區小學生徒の御機嫌伺　去る八日芝區公私立都合廿四校の男女生徒五千五百餘名は、何れも華やかに裝ひて徽章旗を飜へし、其校長及び教員付添ひにて、午前三十分ごろ芝高輪御殿へ、周宮常宮兩殿下の御機嫌伺として參殿せり。

●慈善音樂會　去る七日東京盲啞學校に於て催せる慈善音樂會は、同校資金募集の爲め、岩倉公爵夫人、鍋島侯爵夫人、蜂須賀侯爵夫人、土方子爵夫人、辻令夫人、加藤令夫人、高嶺令夫人等發起委員となり、式部職雅樂部、幷に東京音樂學校の補助により開きたるものにして、當日來賓には蜂須賀侯爵、同夫人、土方子爵夫人、各公使等、其他の外國人も多數、聽衆大凡七百名程にして、八十坪の講堂殆ど立錐の地なきに至れりと。

●東京慈惠病院總會の餘興　芝の慈惠病院にては、本日總會を開き、皇后陛下の御臨幸を仰ぐ由。

●北白川宮妃殿下　同殿下は去る五日午後六時五十分新橋着の滊車にて、鎌倉より御歸京遊ばさる。

●品川子爵夫人の病勢　豫て病氣中の同夫人は、去る三日夕より大に快方に赴きたるよし。

●日本流の袴米國婦人社會に行はれんとす　西洋婦人の風俗が、身躰の健康に不適當にして坐作進退に不便なる事は、屢彼國人の口にする所なるが、何事にも改良進步に躊躇せざる米國にては、既に此事に關し協會を組織し、或は組合を設けて改良法を講じ居る由にて、近頃此會員なるボストン府の一富豪婦人は、現今流行の婦人の衣裳は長く地に引く爲め、雨中泥濘の多き時は外出を厭ふもの多きを憂ひ、更らに新工夫の意匠を得んことを欲し、自分が仕立てたる種々の新衣裳を近隣の婦人に與へて其着用を試み中なるに、恰も善し英國の一貴婦人より送り來りたる裳は、腰部の襞其外とも至極の上工合にて、且つ左右の兩足各別々に分れ居るが故、雨中の步行にも更に泥濘を揚ぐるの憂なく、今日の婦人社會に至極適當のものなりとて、是が仕立者は全く其意匠を日本袴より工夫したるものなれば是を日本裳と名け、廣く社會に流行を促がすの考なりと云へば、遠からずして倫敦紐育の市中に我マチ高袴の流行を見る事ならんか。(橫濱貿易新聞)

●賣淫國民の侮辱來らんとす　と題して五月七日の國民新聞は、其社說欄內に痛論せり、要は海外出稼婦女の取締を嚴にすべしといふに在り。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

●天草地方の名譽　過般中野長崎縣知事が縣下巡回中、天草地方に於て幼年子女の養鷄成績を調査し、東京の諸雜誌に掲載したるや、日本家禽協會々長榎本子爵は大に其美擧を感賞し、去月廿九日を以て佳良の洋種鷄二種二番に左の書面を添へ、中野同縣知事の手を經て、右篤志子女に寄贈したり。

貴縣下高來郡安中村に於て幼年子女に鷄を飼養せしめ其所得金を貯蓄利殖するの方法を立て數年來履行の由感佩の至に御座候依て今回本會より鷄二種二番該村へ寄贈致度候間何卒該村長へ送達方御取計被下度別紙村長宛書面相添へ此段奉願候也

日本家禽協會會長　子爵　榎本武揚

長崎縣知事中野健明殿

（同會幹事玉利氏より村長宛の書面は之を略す）

●適證眼前　津田の仙氏、舞鶴館に於て、禁酒の說法を爲す、聽者雲集、中に一醉漢有り、且つ聽き、且つ罵り、遂に醉臥、鼾聲雷の如く、會の旣に散じ、館の將に鎖られんとするを知らず、却つて自からアルコール中毒の適證を示す、亦た一の好笑と謂ふ可し。（山梨日々新聞）。

●山梨廢娼義會の總會　去る二日午後二時より、公園望仙閣に於て、同會の總會を開きし處生憎大雨なりしため出水の變などありて、遠方の會員は出會を見合せたりと見へ、定刻に至るも來會者甚だ少數なりし、去れど郡内桂村より降雨をも物の數とせず來會せし分部氏等もありて、何れも其熱心燃ゆるばかりの會員三十餘名の出席あり、同會規約上に就き相談を始めしに議論中々盛なりしが、左記の通り議決せし上、幹事の改撰を行ひしに、新海榮太郎、中澤德兵衞、勝格彌、金子せん子の五氏當撰散會せしは、午後六時過なりしと云ふ。

山梨廢娼義會規約

（第一條）　本會は山梨縣下の公娼を全廢するを以て目的とす
（第二條）　本會事務所は甲府市に置く
（第三條）　本會々員たらんするものは會員二名以上の紹介を要す
（第四條）　本會々員にして本會の躰面を汚すものは幹事の意見を以て除名す
（第五條）　本會は公撰を以て幹事五名を置く幹事は便宜により委員若干名を囑托することを得但任期は一ヶ年とす
（第六條）　幹事は本會一切の事務を整理し委員は會務を補佐すべし
（第六條）　本會費用は會員各員の義捐金を以て之に充つ

●藝妓の廢業多し　大阪にては、夫の府令第三號と各警察署に於ける風俗取締の嚴重なると、本年度の地方稅及市稅賦課額の前年度よりも增加したる等種々の事情あるに因りてか、去月より本月へ掛け各遊廓の藝妓より區役所に廢業屆を爲すもの多しと云ふ。

●金澤女子談話會　は女子交際の間に於て、優良の女德を養ふ目的を以て立てられたり、會員は總て女子にして、品行端正擧止貞淑にして、會員二名以上の紹介を經て、入會せしむと。

●女教師歸米　越後高田女學校の教師たりしミリケン孃歸米に付き、去月十五日同校にて送別會を開きたり、孃は日本にあること七年餘、高田に在ること前後二年餘なりしといふ。

●廢娼演說會（共進館に於て）同會は　四月廿七日午後三時三十分より開會、聽衆漸次に增加して五百餘名に達し、第一席に武上武次郎氏「廢娼に關する吾人の鄙見」といへる題にて熱心に演說し、次に巖本善治氏「公娼廢すべき論」といへる題にて、懇切叮嚀に說去り說來りて論理明晰、論旨精確、頗る聽衆をして感動せしめ、午後五時三十分拍手喝采の中に無事閉會せり。（福岡日々新聞）。

●福岡に於ける慈善音樂會の盛況　同會は九州孤兒院を助くるの目的を以て、去月廿八日午後六時半より同地集成館に於て開きぬ、聽集無慮一千餘名、此の擧に關して最も盡力せしは、衣笠景德、大庭乙二郎、林强介、緒方修二郎の諸氏にして、義捐の金員は即時の集金切符と賣高を合せて一百餘圓なりしと云ふ。

●札幌女學校燒失す　過る日の夜、札幌大火にて、女學校は燒失せり。

●三重縣通信

◎私立三重女學校　私立三重女學校は高等なる普通學科、および毛筆畵手藝科を授くる所にして、そが教員六人なり、生徒の現數本科三十人別科九人にして、前年より四人を減ぜり、そもそも、本校は明治二十年一月の創設にかゝり、その經費は授業料と一時の寄付金とによりて支持せしものなるを以て、有志者いたく基礎の弱きを慨し、三重女學振起會てふものを起し、資金を募りて保持せしにより、一時は支持上裕にして漸く盛なる狀を呈せしが、惜むべし該會も前年期滿ちし頃には、旣に支持の途を絕つにいたれり、尙その期を延べ專ら維持の確立を計りしが、未だ其目途確定せず、漸く不振の狀を呈するに至りぬ、女子敎育上誠た歎かはしきとにこそ。

◎幼稚園を設置せんとす　四日市町の四日市學會にては、このたび同町に一の幼稚園を設置せんと目下奔走中なるが、贊成者なかなか多く、同町民もいと悅び居る故に、日ならずして設立せらるゝならん。

◎此母にして此子あり　三重郡あがた村大字赤水なる、軒倒れ壁落ち、寢屋もるり月の影さへ憐をそふる賤が家に木曾原りせ（三十八年）といふ寡婦あり、家もとより貧しきが上に、長女たい（十四年）と、次女ため（十一年）、三女ぶん（九年）、長男多七（七年）の四人の子まであれば、朝な夕なの烟さへたちかぬる樣にて、母は長女を相手に、朝は暗きより山にいり薪などとり、夜は寢ずに賃仕事をして、からくも五人の口を養ひおるとなるが、母のおりせは、家の貧苦をもいとはず、子供の養育こそ何よりも大事なれと、次女、三女、長男の三人を、こころの研精尋常小學校に通はせ、末をたのしみに喜びおるが、小供等は憐にも身には襤褸をまとひ、日々手を携へて登校し他の小供が嘲るも愧らふ色なく、ひたすら勵みつとめ、幼な心にも母の心を悟りて、彼是と手傳ひなどして、常の小兒の及ばぬ事のみいと多かりけるが、中に本年の學年試業には、兄弟三人打揃ふて優等を得しかば

村內の人々みな譽めざるはなく、先には村長始め助役學校教師の人々協議して、若干の金員を惠み、また同校訓導江川氏よりは、算盤、石盤、讀本、筆、紙、墨などの要用なる文具を毋りせに與へられしかば、感泣して其恩を謝し、この後もますく勉學せしむる旨を述べしと、げに感ずべき母子なるかな。

●滋賀縣通信

◎慈善會の擴張　先便に報ぜし如く、近江婦人慈善會はいよく擴張に着手し、此迄大津町會より町內貧民救助の目的を以て年々百圓宛の寄附金を受け、之にて無告の貧病者を大津病院に入院せしめ居りしが、かくては本會の目的を全うするを得ずとて、此度斷然之を辭し、更に有志者の寄附を仰ぎ、縣下一般に及ぼし、無職業者に適當の職業を授くる方法を採り、贊成家も漸々加れりといふ。

◎長濱高等小學にては、本年五人の女子卒業者を出し、一人は京都高等女學校に一人は大津高等女學校に、何れも修學の爲めに入校せりといふ。

◎彥根幼稚園　豫て風評ありて其後立消の姿なりし同園は、此度いよく同地四番町奮勵商場を以て之に當て、假りに開園することゝなり、保姆には京都女子師範學校出身の野村菊子を聘し、本月下旬より開く筈にて、園兒の申込現に二十余名ありといふ。

●宮城縣通信

◎產婆　去月二十日、宮城病院內、產婆講習所の證書授與式を行ひたり、卒業者四十餘名。

◎松操學校にはて去る一日、卒業證書授與式を施行し、翌日祝ひの會を開きて卒業生及び同校に關係の人を招待せり。

●印度の女醫　印度の產にヂヤガンナダムと云へる婦人あり、醫を業とし現今はボンベー病院の臨時醫員となり居れり、今此婦人の修學履歷を聞くに、三年間マドラスに於て、二年間エヂンバラ女醫學校に於て修學し、且つ此學校を卒業しにる後、一年間エヂンバラ婦人及び小兒病院の醫員たりしと云ふ。

●佛國の鐵道會社には婦人の勞働者あり。

●卷煙草販賣禁止案　米國マッサチユーセットの州會に於ては、小兒及大人に卷煙草を販賣することを禁止せる議案を可決したり。

●シカゴ世界博覽會婦人委員會に就て　閣龍世界博覽會開會に際し、婦人委員會と云ふを設立せり、同委員會委員の一人ミスセス、パーマー孃（孃は在維納米國公使の夫人と同胞のよし）は此程懇篤なる一書を我外務大臣に寄せ、我淑德叡聖なる皇后陛下の此擧を御贊成あらせられて、日本貴夫人を代表する所の可然貴夫人を御選定、該委員會に臨場なさしめられんことを懇請し來りしかば、同大臣は早速安藤通商局長をして、土方宮內大臣に就き、同孃々の書面幷に該趣意書とを添へ、同陛下へ奏上の義を申入れたるよし、此事たる我が國婦人社會に在りては最も有益なる擧なるを以て、榎本大臣も大に贊成を表し盡力ある趣きなり。

●ウエルスレー大學本年の年報は既に公けにせられたり多くはウエルスレー贊歎を蒐集せるが如きものにして其体裁は例年とは大に其趣を異にせりと云ふ。

●二女史の演說會　去月十日の夜レデー、ヘンリーサモルセット幷にウイラードの二女史はイリノイ州エバンストン大學の女學生等に一場の演說を爲しぬ當日會集せるもの二百十四名にして悉く白紐の記章を或は肩に付け或は時計の鍵に結びなどし會場にて英米の國旗を飜がへし百合花其他百草の花輪は束れて諸所を飾られたり而して同大學教頭エミリーハッチンソンミラー夫人は例の爽快なる音調もて二女史を紹介せられたりと云ふ。

●ミラーブラッドウエル夫人　嘗て二十余年間シカゴ府レガルニユースの記者たりし同夫人は今般合衆國高等裁判所に於て大訟師ミラー氏の所作に對し辨論を許されたり而して夫人は去る四月廿八日に宣誓せられたりと云ふ。

●陶器鍍金の發明　ワシントン府のエミリーヒーレー孃は輓近陶器の鍍金法を發明せられぬ、兼て同業に藝達なるジョルヂハンズ氏は云ふ陶器に鍍金するとに付き此法は特に奇妙なる方法なりと而して其見本は紐育府チフ、リー商店にありと云ふ。

●婦人商會　同會はミゾーリ州のナッチエスに建設せられクラトウチルウヲーズ孃は會頭に推擧せられたりと云ふ。

●婦人對等政權倶樂部　チハイチ州トレドーなる同倶樂部にては大統領內閣國會諸般の外交問題幷に立法上に稟議する處あらんとして各委員を撰擧せりと云ふ。

●レデーヘンリーサモルセット女史の榮譽　マサチユセット州なる婦人同盟會にては三月七日にトレメントテムプルに於て婦人禁酒會より開かれたる大會に同等權と云ふとに付き論述せられたる有益なる演說に對し女史が有力なる言語の證明の爲め記念章を呈するとに決せりと云ふ、因に云ふ同女史は至る處如何なる種類の會議を問はず尊敬を受らるゝと云ふ。

●テンチンー州メンロスなる婦人病院協會　同會は今般ヒユーブラックレー氏より五千弗の寄附によりて婦人の爲めルシーブラックレー醫院と名くるもの及第百〇六ワシントン街に同施療院を建設せりと云ふ、同會會長はダブリユージエークローフオード夫人書記はジーダブリユーマックレー夫人なりと云ふ。

●テンチシー州メンヒスなる基督教婦人同盟會　同會は毎月一回グリーナーと名付る新誌を發行せり、記事は主に同會諸般の事は婦人商會、婦人病院協會、幼稚園聯合會幷ゞ其他同府內一切の婦女子に關する注意すべき事件等漏なく記さるゝと云ふ、主筆はナーガス、カムベル夫人なり。

●婦人委員の可決　デラウエア州メソデストエピスコパル協會々議にても同大會婦人委員をも次席せしめんとの議は五十六人に對する六十人の多數にて可決せりと云ふ。

●憂べき報告　ミチアポリス婦人撰擧權擴張同盟會々頭エービートイレー夫人は近頃病氣危篤なりと云ふ。

●シカゴ府公立禁酒病院附屬看病婦學校　同校にては去る四月に於て九人の卒業生を出せりと云ふ。

●英國女皇陛下の誕生日は來る二十四日なり。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

品名	五月十二日
白米（一円ニ付）一等米	斗升合 九七
二等米	九八
三等米	一〇二
四等米	一〇四
五等米	一〇六
正米（一円ニ付）尾張米	斗升合 一三〇
美濃米	一三一
伊勢米	一一九
肥前米	一三四
忍領米	一二九
雜穀（一円ニ付）本貫大麥	斗升合 二九〇
上州小麥	一七五
竹林麥	一八五
梅澤大豆	一九五
青柳大豆	一九五
吟小豆	一六七
白胡麻	一二〇
黒胡麻	一四〇
鹽（一円ニ付）赤穂	俵 三、四〇
大鹽	三、五〇
本齋	五、六〇
新齋	六、二五
醤油（一円ニ付）最上 / 極上 / 上物 / 中物 / 並物	樽分厘 七五 七九 八八 一、一〇 一、三〇 一、六〇 一、八〇 二、〇〇 二、一〇 二、七〇
味噌（一円ニ付）地製上白	貫 六、七〇〇
同上赤	六、七〇〇
同紅赤	四、三〇〇

品名	五月十二日
絹糸（一円ニ付）本練花色	匁 二七五
同色物	二五五
羽二重系	二四〇
延糸太筋	三三〇
芥子系	二九五
同溝色	二四〇
極天色物	二三五
色物太練	二五五
紡績系	四七〇
蚊張（一帳ニ付）松印五六	円 二、三一
同六七	二、九〇
同六八	三、二五
同六九	三、六〇
同七八	三、八二
同七九	四、一一
同七十	四、五五
同八十	五、〇二
同十々	五、七二
白木綿（一円ニ付）玉鶴	反 三、五五
綾鶴	三、七五
日の出鶴	四、〇〇
若柳	三、二五
稲岡	三、五五
見玉	三、七五
蓬莱	四、〇〇
古新	三、三三
改〆	三、五五
濱縮緬 大巾上馴	円 四、八〇
小巾百廿目立	五、三〇
六丈絹猩々紅 五十目立別仕入	円 五、七〇
同並	五、二〇

品名	五月十二日
製茶（一貫目ニ付）山城江州稀大頭	円 二、五五
同稀頭	二、一〇
同大頭	一、七七
同中頭	一、五五
同中茶	一、二〇
狹山稀大頭	二、〇〇
同稀頭	一、七五
同大頭	一、五〇
同中頭	一、二五
同中茶	一、〇五
乾海苔（百枚ニ付）洲崎	銭 七五
大森	七五
深川砂村	七五
大師河原	六〇
潮田	五〇
鰹節（十貫目ニ付）土佐夏	円 二八、五〇
伊豆夏	二九、〇〇
駿遠夏	二七、〇〇
薩摩夏	二三、〇〇
房總夏	二二、〇〇
銚子夏	一八、〇〇
水油（一樽ニ付）地水	円 六、六〇
胡麻油	一〇、三〇
荏油	一〇、二〇
桐油	五、七〇
冬	七、五七
坂水	七、五七
石油（一箱ニ付）チヤスター	円 ……
デボース	……
ホーキ	一、六五
ロシヤ	一、五九

岐阜救濟會結了報告

曩に女學雜誌外二新聞を以て報告し置きたる如く我が岐阜基督教徒は震火災の爲め非常の慘害を蒙りしにも係らず天父の庇保により幸して生命を全ふするを得たり茲に於て當地三教會（聖公會日本基督教會美以教會）信者一致して本會を組織し普く罹災者を賑恤せんと圖る時に名古屋に在る信徒諸氏は早や既に義捐金品を天下に募集し救助の業に從事せられたり依りて爾來合同協力し有無相通ぜんことを約す又大垣の信徒諸氏は大阪及び東京より派遣せられたる有志家の助けを得て同地に事務所を設け熱心事に當られたり本會亦是と氣脈を通じ互に協力補助したりき當時貨物運送の便交通の路殆んど斷絶の有樣にして當市は東西活路を失ひ救を仰ぐの術なきに苦しむ就中被害地の劇慘部に介在したれば吾曹如何にして救濟の法を執らんか事誠に倉卒の際集議熟議好策を得ず只だ茫然自失の姿なりしが名古屋及び大垣救濟會と相聯合提携するを得たるは實に望外の幸と云ふべし而して本會の組織略成り事稍や緒に就くに及んで直に委員を地方に派遣して其實況を視察す當時被害地の廣き罹災者の多き吾曹少數人の力能く當り難きを感ず然るに天父は諸方より篤志の諸兄姉を送りて本會の事業を助けしめたり依りて本會は今日全く結了して其成蹟を大方諸君に披露するを得るに至る是上天父の冥助により下同胞諸兄姉の義擧贊助せられたるとを鳴謝する所なり倩本會が最初より執りし事務の大略は嘗て公にせし處なるが今日完結閉會するに臨み更に左の三項に分ちて之を報告すべし固より詳細に記載するとは實に容易の業にあらざれば只だ其要領を列擧する耳

第一　衣食住一時の救助
第二　負傷者及び病人に對する救助
第三　教育及び授産に關する救助

第一　衣食住一時の救助

先づ岐阜市に於ては家屋等を全燒し財産を蕩盡したるの窮民を首めとし全潰半潰したるものゝ中最も慘害甚だしくして他の篤志者の澤潤ふ能はず或は飢寒に瀕するものには米穀衣類を施し又小屋掛料を補助して風雨を防がしめたり殊に假屋をも建る能はざるの至極憐むべきものゝ爲には假小屋を設置し名けて基督教徒設立救濟場と云ふ茲に避居し急難を免れたるもの十戸三十餘人（昨年十一月に建築し本年四月末日に引拂へり而して此建造物は當地に在りて有志者の設立せらるゝ實業救濟會へ悉皆寄附したり）なりし而して此救助を受けし人員は衣類七百七十一戸食物百五十三口金を受けしもの四百九十八戸外に救濟場に在りしもの三十餘名にも同樣衣食金等を施せり

他の町村に至りても右同樣の方針を以て或は小屋掛料を補助し衣類を施し米穀芋鹽等便宜其必要に應して救與せしもの衣類五千五戸食物一千三百八十戸金二千百十四戸にして碗類皿桶等を施して日用具の欠を補ひしもの其數四千八百九十四戸

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

就中根尾谷の如きは薩摩芋軍用パンを多量に送りたり是れ此の地は損害最も甚たしく降雪目前に迫り數日を出ずして或は食を取るの路なく或は饑死するものあるやも計られざるを以て注意する所ありし此數七百五十九戸此の渓谷に接近して外山と總稱する部内も同様薩摩芋五百戸へ與へたり

岡山幷に博愛孤兒院曉星園其他東京大阪北海道等の孤兒院へ救れし孤兒には其必要に應して相當の衣服を給するをつとめたり

獨ほ本會は奉養者なき老人自ら働く能はさる盲唖聾者等の如きものには意を用て捜索し衣食金錢を施與したり

第二　負傷及び病人に對する救助

岐阜其他接近市町に在りては醫員の配置看病人の保護十分行届きたれば本會は各處病室に必要なる物品藥料其外毛布衣類等を寄送したれとも未だ病室の設けなき所には殊に東京幷に大阪より醫師の出張を請ひ以て遭難者を救ひたりき即ち今尾高須等の如き之れなり大垣病室は同地救濟會に關する所なれども建築費金五拾圓を補助したり

災後衛生の法を失したるより種々の病害に罹るもの尠からず就中彼の大野郡豊木村幷に外山地方の如き窒扶斯患者を治療する爲めに醫師三澤默二郎中村友吉及び看護人水谷虎之助金子健治の四氏を送りたり而して勿論病者には營養物衣類等を施せり

因に云ふ豊木村は昨年十二月三十日三澤醫師出張本年一月廿三日引き上げたり最初患者百三十名外山病室は昨年十二月八日中村醫師出張一月六日引拂ふ患者十數人猶兩病室とも外來患者數十人ありし

第三　教育及び授産に關する救助

岐阜尋常小學校は震火災の爲め全く烏有となり（震火災の爲め燒失せし學校は只此校一つ耳）兒童の所有品も夥多燒失せり依りて貧家の子弟は或は廢學するものあるを聞く誠に憐然のものと云ふべし故に本會は金壹百圓を投じて學校用具即ち石盤石筆算盤等を購入して與へたり此人員七百有餘

又北方町は震動線に當り家屋の潰倒殊に多かりし故に校舍の如きも盡く破潰し従ふて兒童の校具は大半破損し其用をなさゞるに至る依りて本會は三十餘金を以て兒童用具を施せり此人員三百五十

當市に在る貧困者に「ハンカチーフ」縫臺二十五脚を施與せり

元來少資を以て日々路頭に小菓子小細工物を販ぎ其日暮しの賤業者は被害者の中にも一入憐むべきものなれば金錢を與へて其資に供せしめ以て商業に就かしむ最も限りなきの窮困者なれは多額の金を施すを得ず僅に五拾錢より壹圓に至る然ども此數十錢の資今日猶一戸三口活路を得るものあり

以上三種の項目中本會の主として働きし運動の方針は第一第二項なりし其所以は義捐寄附者は教育授産の如き焦眉の急に迫らさるものを救濟する目的を以て送りしもの少く眼前飢に叫び寒に泣き或は痛傷業を執る能はざる者を救恤する精神を以て送りしもの實に其大部を占めたり故に本會委員は義捐者の厚意に背かさらんことを努めたり

本會救助の區域は一市九ヶ町五十有村役塲部内に跨る而して其救助を受けし窮民を概算せば衣類五千七百七十六戸食物一千五百三十三戸金二千六百十戸病者七百七十五人器具四千八百九十四戸

本會收支の金品を擧ぐれば左の如し

收入

一金壹千六百六拾五圓七拾九錢　内外義捐總額

支出

一金壹千五百貳拾圓參拾九錢六厘　救助金總額

一金八拾四圓五拾參錢　旅費幷に運送費

一金六拾圓八拾六錢參厘　郵便電信幷に事務所諸費

總計金壹千六百六拾五圓七拾九錢

物品は衣類六千五百二十八點蒲團衣類等蓮包大小七十個毛布百十餘枚綿撒糸十二反鹽廿七俵軍用パン三博千飯一俵梅干一桶なり

以上金品を分配使用し盡したり思に或は救濟其方に適せざる所も多くして必ず義捐諸君の芳志に酬さるものあるを信ず然ども震災の當時吾曹も亦罹災の一人にして倉卒の際不慣の業に當りしものなれば大方慈善なる兄姉諸君乞ふ幸に之を恕せよ只感謝す本會が諸君の義捐金品を扱ひ以て幾千の窮民を飢餓より救ひ幾百の生靈を凍寒より免れしめ以て彼等を安きに歸せしめたるを而して今日暖氣に迎ひ略其惨状を挽廻し稍安堵の思を成すの時に至りたれば本會は玆に救濟の業を結了して閉會す乍併慈善なる兄姉中猶ほ被害地の諸所に散在せる窮民を助けんとせば吾曹の教會に宛て寄附せらるべし必ず其の勞を取らん敢て辭する所にあらざるなり

終に臨んで一言以て震火災の始めより今日に至るまで遠路をも厭はず來りて本會を助て或は直接に救助の勞を執られたるの諸兄姉幷に醫師看病人等の諸君へ縣下窮民に代りて玆に鳴謝す

明治二十五年五月四日

岐阜基督教徒救濟會

委員　南小柿洲吾

市來敬太郎

森巻耳

富永亨

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

増補再版 信仰の理由

小崎弘道君著

定價 十五錢
郵税 二錢

國民之友評 宗教界には凡て不信の風吹き荒らして莊嚴華麗なる堂塔寺觀をも大地に打倒さんとし、不信愈熾んにして世は將に詐僞の天地とならんとす、他教の事はさて措き、此書は基督教につきて信仰之理由を簡畧に示せる者にして著者が、多年人の爲め又己れの爲めに談論し若くは思惟せし者より成り立てり、今其再版せられて復も廣く衆を益せんとするは賀すべき也、宗教は世の膽なり、其膽なくんば世間の道德は頽敗するの外なし、懷疑は德を建る者に非す、唯信を以て萬德の本となす、信仰の理由是に於てか貴し

福音新報評 著者實際傳道の際に切れ味を試みられたる鋭利なる證據論にして、求道者抔に一讀せしむるに適するは素とより、信者といへども因て以てその立ち塲を堅固にすべきを得べきなり

英國地質學會特別會員ウヰリアム、ゲスト氏著
京都同志社教授浮田和民氏譯

再版 博愛美談

洋綴美本全壹册但四百餘頁
肖像入定價三十錢並綴定價二十二錢

右は博愛仁行を以て名を天下に顯し彼のホワードウイルベルフォス等諸氏と其譽を均うしたる佛國の士スチウン、ゲレレット氏が一生の事業を網羅する者にして氏はナポレオン一世の時兵馬倥偬の間に在て單身歐洲列國を周遊し其帝王の間に周旋して萬國の和平、良心の自由、及奴隷廢止の大義を唱へ其他終始各國監獄の改良に與りて大に力ありし人也故に氏の風を聞けば怯夫も剛に懦夫も興起せざるなし實に氏の如きは獨り一世の仁者耳ならず又仰で百世の師となすべし今の世漸く澆季に際し人情日に輕薄に流れ苟且偸安の俗殆んど將に禦ぐべからざらんとす苟くも國を愛し世を憂ふるの君子は常に此書を以て自ら警戒し且つ其子弟に敎誨せられなば我國の元氣何ぞ其張らざるを憂るに足んや

發行所 東京市新橋出雲町 警醒社書店
關西賣捌 大阪西區土佐堀三丁目 福音社

每月二回 **黨報** 定期刊行

第拾貳號目次（五月十日發行）

○黨　論
選擧干渉を論す
○演　説
◎條約改正に就て……星　亨
◎政海の暗礁……金森通倫
◎鐵道擴張案を論す……江原素六
○黨　報
◎代議士總會◎大演說會◎議長當選祝宴◎山城自由倶樂部◎追加
◎我黨代議士部屬表◎自由改進兩黨聯合被告事件◎代議士宿所
○論　説
◎新議會の性質……金森通倫
◎黨史編纂論……小室重弘
○帝國議會
◎勅語及奉答◎衆議院◎貴族院
○時　事
◎開院式◎第三議會◎干渉問題◎其後◎松方首相◎衆議院議長◎再ひ貴族院の傾向◎議案の緩急◎民黨三團躰◎中央交渉會◎地價修正――非地價修正◎尸餐議員◎法官の鬪花◎懲罰◎嫌疑者◎猜娟擠陷◎總理大臣の演說◎落膽◎政府委員◎政府の勇氣◎形勢◎黃金◎贊成の交易◎非我及也◎多言◎議事錄◎一現象◎欠乏◎不知爲不知◎議員たるの本領◎幾「インチ」ぞ◎君子◎悠々◎人心◎廿五年度歲計豫算及剩餘金一覽表◎時事日記

代價（一部金六錢〇十二部六十六錢〇廿四部一圓廿錢（不要郵稅）
（廣告料行數回數に拘らす一行十錢〇凡て前金の事

東京市芝公園 **自由黨黨報局**

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

女學雜誌(第三百十七號)明治廿五年三月十五日(遞信省認可)明治廿五年五月十四日發兌

孤女學院へ義捐のため演奏會廣告

今十四日(第二土曜)午後一時京橋區木挽町厚生館に於て開會仕候有志諸兄姉御來會あらんことを冀望仕候。演奏項目左の通り

但し入場券は、女學雜誌社に於て發賣す

項目

開會の主意	横井時雄君
樂隊	市中音樂會
清樂合奏	梅園連中
三曲	櫛田闌清君
薩摩琵琶	山下利助君
講談	松林伯知君
長唄	有志者
劍舞	有志者
バイオリン合奏	天羽ひで子
オルガン並に誦歌	平野まち子
西洋手品	歸天齋正一君

以上

發起 婦人レプタ會

明治女學校幼年科新設の廣告

本校從來本科の下に豫科を置き高等小學相當の授業致來りしが今の小學教授上德育に慨する所あり又本校主旨とする所の教育を施さんには之れを更に幼少なる年代より初めざる可らずと信じ此度豫科の下に更に幼年科を新設し專ら尋常小學相當の授業を爲さまく欲す、左れば六歲家庭の温養を蒙むり了りたる曉は直に此幼年科に入り追ふて豫科に登らば其後三年にて小學全科卒業の資格を得べし、而して此の小學科の科程は無論文部省指定の則に隨ふ、其精神上の修養法に至りては自から世間一般の小學校と趣を異にするものあらん、吾輩の精神希望に贊助せらるゝ諸君は請ふ其幼けなき愛孃を來學せしめよ。

月謝三十錢、束脩金なし、

東京下六番町六番地

明治女學校

東京市麴町區下六番町六番地
發行所 女學雜誌社
編輯兼發行人 巖本善治
印刷人 堀口庄三

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY

孤女學院へ義捐のため演奏會廣告

今十四日（第二土曜）午後一時京橋區木挽町厚生館に於て開會仕候有志諸兄姉御來會あらんことを冀望仕候。演奏項目左の通り

但し入場券は、女學雜誌社に於て發賣す

項目

開會の主意	横井時雄君
樂隊	市中音樂會
清樂合奏	梅園連中
三曲	櫛田閑清君
薩摩琵琶	山下利助君
講談	松林伯知君
長唄	有志者
劍舞	有志者
バイオリン・オルガン合奏並に踊歌	天羽ひで子
	平野まち子
西洋手品	歸天齋正一君

以上

發起　婦人レプタ會

明治女學校幼年科新設の廣告

本校從來本科の下に豫科を置き高等小學相當の授業致來りしが今の小學敎授上德育に慨する所あり又本校主旨とする所の敎育を施さんには之れを更に幼少なる年代より初めざる可らずと信じ此度豫科の下に更に幼年科を新設し專ら尋常小學相當の授業を爲さまく欲す、左れば六歲家庭の温養を蒙むり了りたる曉は直に此幼年科に入り追ふて豫科に登らば其後三年にて小學全科卒業の資格を得べし、而して此の小學科の科程は無論文部省指定の則に随ふ、其精神上の修養法に至りては自から世間一般の小學校と趣を異にするものあらん、吾輩の精神希望に賛助せらるゝ諸君は請ふ其幼けなき愛孃を來學せしめよ。

月謝三十錢、束脩金なし、

東京下六番町六番地
明治女學校

東京市麹町區下六番町六番地
發行所　女學雜誌社
編輯兼發行人　巖本善治
印刷人　堀口庄三